

地域の特色を生かした農業等の取り組みを学ぶ

～農地部会 移動部会を開催～

鶴岡市農業委員会では、管轄する農地が広範囲であるため、旧東田川郡を管轄する東部農地部会と、旧鶴岡市・旧西田川郡を管轄する西部農地部会を設置しており、それぞれ農地法及びその他の法令に基づく権利移動などについて審議を行っています。

移動部会は、広域に渡る鶴岡市の地域特性・魅力・先進事例を学ぶため、委員が各地域を訪問し、意見交換や情報の共有を行う活動です。



東部農地部会 ～七五三掛地すべり 対策現場等を視察～



東部農地部会（藤島、羽黒、櫛引、朝日地域の委員17名）の移動部会は、6月10日に朝日地域にて開催されました。

初めに視察したのは、七五三掛地すべり現場と排水トンネル。

現地では災害発生時の様子を写真を使っての説明がありました。道路の亀裂や段差、家屋の基礎の歪みがありありと映っており、事の重大さを物語っています。

した。また、その後に見学した排水トンネルでは、地下水を排水する工事が今なお続けられている状況で、委員からは農地への影響や安全対策など、多くの質問が出されました。

続いては、月山あさひ博物村の月山ワイン山ぶどう研究所。

昨年に導入されたワインの充填ラインの説明を受け、より安全で高品質な月山ワインへの加工が行われていることを知りました。すでに数々の賞を受賞している月山ワインですが、さらにおいしくなり、鶴岡を代表する特産品になっていくことを確信しました。

今回は通常では見ることのできない施設で、貴重な話を聞くことができ、良い経験になりました。

（農業委員 伊藤由紀子）



西部農地部会 ～地元農業者の 講演会～

西部農地部会（鶴岡、温海地域の委員15名）の移動部会は、7月8日に温海地域で行われました。

部会終了後に鶴岡市小名部の五十嵐一春氏を招いて、演題「私の目指す農業スタイル」と題して講演を頂きました。

五十嵐さんは養豚＋アスパラガス＋水稻の複合経営で生計をたてています。

養豚に関しては、生産性を高め売上高を伸ばす攻めの農業ということで、年間の分娩数や飼料などすべて計算しコストを少しでも削減する対策を講じているようです。例えば、庄内はエサ代が高いが、それは輸入港・飼料工場とも太平洋側にあるため輸送コストがかなり割高になるからで、そのため五十嵐さんは飼料用米破砕機、攪拌混合機など自前で飼料工場を作り飼料

を配合していました。これらの投資により飼料コストを削減したうえで良質な枝肉を生産しています。

一方、アスパラガスの作付け面積は240aで、豚の堆肥・液肥を栽培に活用しています。出荷量は年間10tでほとんどが関東方面に出荷しているとのこと。

これからも目標を高くもって突き詰めていきたいというところで、「やれば出来る」のスタイルで頑張っているようでした。

まとめの言葉「食は命」。

（農業委員 五十嵐 覚）

